

ビーだま

ビーだまのように、キラリと光る一冊を

2023年1月～12月に発行された本の中から、とくにおすすめの本を紹介ししょうかいます

<編集・発行> 富山市立図書館 富山市西町5番1号
電話 076-461-3200
令和6年4月23日発行（年1回発行）

起業家フェリックスは12さい歳

アンドリュー・ノリス／著 千葉茂樹／訳 あすなろ書房



フェリックスは、6歳さいからいろいろなビジネスに挑ちょうせん戦しては失敗してきました。でも、今回はついに大成功！友だちや家族の力を借りて、誕生日たんじょうびやクリスマスに贈おくるすてきなカードを売る会社を作り、12歳さいで社長になります。

ビジネスって、大人にしかできないむずかしいことだと思っていませんか？ 実はやり方さえ知っていれば、そんなにむずかしいことではないのです。

アナタノキモチ

安田夏菜／著 文研出版



ハルくんは、自閉スペクトラム症^{しょう}という障^{しょう}がいがあり、「人の気持ち」を思いやることができません。いとこのひよりは、ハルくんをそっと見守ります。あるとき、ひよりはよかれと思って友だちにお菓子^{かし}や服^{ふく}をあげました。けれども、その友だちに^き避けられるようになり、「人の気持ち」がわかっていないのは自分の方だったと気づきます。



図書館がくれた宝物

ケイト・アルバス／作 櫛田理絵／訳 徳間書店

第二次世界大戦中のロンドンで、親代わりだったおばあちゃんを亡^なくした3きょうだい。保護者がいなければ、離れ^{はな}ばなれになってしまいます。そこで3人は集団疎開^{そかい}に参加し、疎開先^{そかいさき}で保護者になってくれる人を探^{さが}すことにします。

ばらばらにされないために、つらい日々をたえ抜^ぬく3人を支えたのは、小さな図書館との出会いでした。



だれもみえない教室で

工藤純子／著 講談社



連^{れん}、颯斗^{はやと}、清也^{せいや}、涉^{あゆむ}、幸太郎^{こうたろう}の5人は、5年生からの仲間です。ところが6年生のある日、颯斗が清也のランドセルに金魚のエサを入れるという「いたづら」をしてしまいました。担任^{たん にん}の先生は4人をよび出して清也に謝^{せいや}らせることで、無理やり解決しようとし^します。実は、先生も小学生のときに友だちをいじめたことがあったのでした。

草の背中

吉田道子／著 さげさかのりこ／絵 あすなろ書房



咲のおばあちゃんのこよみさんは、手紙を残して亡くなりました。手紙には、小学生のころ、転校生の男の子に無視された腹いせに、ひどいプレゼントを贈ってあやまらなかったと書かれていました。とりかえしのつかないことをしてしまったと思っていたこよみさんでしたが、実は思いがけない形で埋め合わせができていたのです。



どすこい！

森埜こみち／作 佐藤真紀子／絵 国土社

学校一太っている凡は、毎年開かれる学校対抗の相撲大会で活やくするのを楽しみにしていました。ところが、春の大会で対戦した相手には手も足も出ず、見向きもされませんでした。秋の大会ではもっといい相撲を取って見返してやるために、凡は相撲取りだったという駄菓子屋のへんくつじいさんに、相撲を教えてくださいようたのみます。



希望のひとしずく

キース・カラブレーゼ／著 代田亜香子／訳 理論社



その街には、森の中の井戸にコインを投げて願いごとをすると叶うという伝説があります。だれも信じていませんでしたが、突然小さな奇跡が起こりはじめます。一人ぼっちの転校生には親友ができ、字が読めなかった男の子は読めるようになりました。奇跡の影で人知れず活やくしていたのは、3人の中学生でした。

葉っぱの地図

ヤロー・タウンゼンド／作 井上里／訳 小学館



母を謎の病で亡くしたオーラは、森の中の小屋に一人で暮らしています。馬と庭の植物たちがいるので、さみしくはありません。オーラは植物と話すことができるのです。

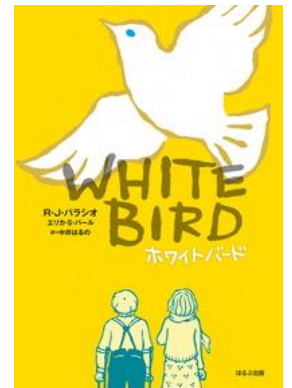
ところがある日、植物たちが母と同じ病にかかっていることに気が付きます。オーラは母が隠した特效薬を探そうちに、母の死にまつわるおそろしい秘密を知ります。



ホワイトバード

R・J・パラシオ／原作 エリカ・S・パール／ノベライズ 中井はるの／訳 ほるぷ出版

サラのクラスメートのジュリアンは足に障がいがあり、クラスでのけ者にされています。サラも友だちに合わせてなんとなく無視していました。そんなとき、第二次世界大戦が起き、学校にナチスの兵士がやって来ます。ユダヤ人のサラは何とか逃げ出しますが、助けてくれたのはジュリアンでした。



ニワシドリのひみつをもとめて ものづくりする鳥のふしぎをさぐる旅

鈴木まもる／著 理論社



オーストラリアとニューギニア島だけに住んでいるニワシドリは、巣のような見た目の「アズマヤ」というふしぎなものを作ります。木の枝や葉っぱで塔や屋根のような形を作り、大きなものは何メートルにもなります。

なぜそんなことをするのでしょうか。作者の鈴木さんは、それを知るためにオーストラリアへ見に行きました。